

## 主体的な学習に向けて

副校長 登坂峰行

今年も梅雨を迎えましたが、例年になく降水量が少ない日が続いています。

まだ入梅前のことです。その日も下校時刻になり、昇降口からは帰宅する児童が出て来ます。ほどなく6年生が3人、職員室の外扉をノックしました。「枝にさなぎがいます。」一緒に行ってみると切り取った山桃の枝に何かついています。よく見るとびっくり、さなぎではなくミノムシでした。私が子どもの頃は生け垣にぶら下がっている姿をよく見ました。それ以来何年ぶりでしょうか。子ども達は初めて見るミノムシに興味津々、袋の中の幼虫を見て不思議さ倍増です。

さらに月日をさかのぼります。1年生が生活科の授業で草花の種を蒔きました。子ども達は学校に着くとすぐに自分の鉢に向かいます。「5個も芽が出た。」朝の校庭に子ども達の明るい歓声が響きます。「今日は芽が出ているかな。」と、わくわく感とともに登校して来たことでしょうか。芽が出た喜びを全身で感じている様子が伝わってきます。

子ども達は生活の中で様々な出会いがあります。自然に関わる出会いも数多くあり、上記のように初めての出会いに感動したり、形の不思議さや動きのおもしろさを味わったりすることも少なくないと思います。このような子どもの興味・関心を大切にして授業を行うことは、主体的な学習が成立する重要な要素であることは改めて申し上げるまでもありません。しかし、素朴な疑問から発展し、子どもが進んで課題を解決していく学習につながるためには意図的、計画的な手立てが必要です。3月に、新学習指導要領が公示されましたが、今回の改訂では「主体的・対話的で深い学び」を目指すとされています。子どもが「何のために学び、何ができるようになるのか」を意識することを通して「さらにできるようになりたい。」という意欲につながっていきます。5年生はメダカを育てる活動の中で、水草に産み付けられた卵がやがてかえり、成長する過程を観察します。水槽で育てるときはえさをあげますが、自然界で与えられるえさはなく、子ども達は何か食べるものがあるはずだ、と予想し、保健室前の田んぼの水を観察しました。よく見るとごま粒のような生き物が泳いでいます。ミジンコがいました。「微生物がいるのか。」「ミジンコを食べているに違いない。」と、考え方をもちます。このように「何を調べるか、そして何が明らかになったのか。」を子どもが意識することで、主体的な課題解決が行われると考えます。

7月に入り夏休みも間近に迫ってきました。子どものもつわくわく感を大切に、夏休みの学習につながっていくよう職員一同指導していきたいと思っております。

